

7月の植物

ハマナデシコ（ナデシコ科）

学名：*Dianthus japonicus* Thunb.

7月の観察会はカワラナデシコがテーマですが、すでに去年8月に紹介されていますので同じナデシコ科のハマナデシコ（別名フジナデシコ）を紹介します。

海岸植物は、日常的に潮の影響を受けるため、そして水条件が悪いため、内陸の植物とは種類がかなり違ってきます。その多くが海岸でないと見られません。さらに、海岸植物と言っても、砂浜の植物、磯海岸の植物、干潟の植物とすみ分けていることが多いです。ハマナデシコは磯海岸に多く生育しており、波戸岬、七ツ釜、串崎海岸などでは、随所で群生しているのを見ることができます。ただし、砂浜に全くないかというところ、虹の松原の海浜や松原内に見ることもできます。花の色は淡紅色が多く別名のフジナデシコ（藤撫子）は花の色から来ていると思われそうですが、海岸で咲き競っている花の色は白っぽいものから赤紫色が強いものまで個体差が大きいです。まれに純白の個体があり、シロバナハマナデシコ（f. *albiflorus* Ohara ex Nakanishi）と呼ばれ、馬渡島で見ることができます。

古くから園芸植物として品種改良されているようで、まれに民家近くで見ることがあり、必ずしも海岸でなくても生育できるようです。花言葉は、陽気な恋、純愛、無邪気、大胆、才能、といういろいろあるのですが、ナデシコ類が誰からも親しまれているためなのでしょう。（文責：上赤博文）



↑ ハマナデシコ 波戸岬 2015.6.13

シロバナハマナデシコ 馬渡島 2019.6.22→